

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成17年7月7日(2005.7.7)

【公開番号】特開2003-162085(P2003-162085A)

【公開日】平成15年6月6日(2003.6.6)

【出願番号】特願2001-363041(P2001-363041)

【国際特許分類第7版】

G 0 3 G 9/08

F 1 6 C 13/00

G 0 3 G 15/02

G 0 3 G 15/16

【F I】

G 0 3 G 9/08

F 1 6 C 13/00 E

G 0 3 G 15/02 1 0 1

G 0 3 G 15/16 1 0 3

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月8日(2004.11.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

像担持体と、この像担持体の表面に接触して該表面を帯電させる接触型帯電手段と、この接触型帯電手段により帯電させられた前記像担持体の表面に、画像情報に応じて露光することにより静電潜像を形成する露光手段と、この静電潜像を球形状トナーにより現像してトナー像とする現像手段と、このトナー像を前記像担持体の表面から転写材に静電的に転写させる転写手段と、を有する画像形成装置であつて、

前記像担持体と、前記接触帯電器と、の当接部を通過した変形トナー粒子の下式(1)で表されるトナー形状変化率(T_t)が、50%~100%の範囲内であることを特徴とする画像形成装置。

式(1) $T_t (\%) = (h / x) \times 100$

[式(1)において、xは、変形トナー粒子投影像の最大長さ(μm)を表し、hは、該変形トナー粒子投影像の最大長さ方向の軸と垂直な面に形成される変形トナー粒子投影像の最大長さ(μm)を表し、x hである。]

【請求項2】

前記球形状トナーの体積平均粒径が、2μm~9μmの範囲内であることを特徴とする請求項1に記載の画像形成装置。

【請求項3】

前記接触帯電器として、回転体の表面に少なくとも1層以上からなる中間層と、さらにその表面に弹性体からなる表面層が形成されてなる帯電ロールを有する画像形成装置であつて、

該帯電ロールの直径が、6mm~13mmの範囲内であることを特徴とする請求項1又は2に記載の画像形成装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

<2> 前記球形状トナーの体積平均粒径が、2 μ m ~ 9 μ mであることを特徴とする<1>に記載の画像形成装置である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

<3> 前記接触帶電器として、回転体表面に少なくとも1層以上からなる中間層と、さらにその表面に弾性体からなる表面層が形成されてなる帶電ロールを有する画像形成装置であって、

該帶電ロールの直径が、6 mm ~ 13 mmの範囲内であることを特徴とする<1>又は<2>に記載の画像形成装置である。